

平成19年2月

大橋 誠 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 日 野 茂 男
同 西連寺 剛

主論文

Accumulation of Epstein-Barr virus (EBV) BRF1 protein EA-D during latent EBV activation of Burkitt's lymphoma cell line Raji

(バーキットリンパ腫細胞株Rajiの細胞内潜伏Epstein-Barrウイルス(EBV)の活性化におけるBRF1蛋白質EA-Dの蓄積)

(著者：大橋 誠、堀江和峰、星川淑子、長田佳子、尾崎充彦、井藤久雄、西連寺 剛)

平成19年2月 Microbes and Infection 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、EBV活性化における初期遺伝子BMRF1蛋白質EA-Dの細胞内での発現、蓄積、そして、EA-Dの機能的役割を解析することを目的としたものである。その結果、EBV活性化の早期にリン酸化EA-Dである58 kDa、50 kDa分子として発現され、後期には脱リン酸化EA-Dである48 kDa、44 kDa分子が死細胞内に蓄積することが明らかとなった。本結果は潜伏EBVの活性化における新知見を報告したものであり、明らかにウイルス学や分子生物学分野の学術の水準を高めたものと認められる。